



2009/06/01

## 鳥との出会い／ソウシチョウ

まだ探鳥会にも参加したことのない数年前のことです。

自宅裏の雑木には、よく小鳥たちが来てくれます。おなじみのウグイスやエナガなどですが、冬になるとシロハラとヒヨドリ、ルリビタキとジョウビタキの縄張り争いなどが見られます。そんな鳥たちの声や気配を感じていたい時には、いつも窓を少し開けて静かにしています。

その日も休日の午前中で雑誌などパラパラ眺めていました。すると、「チュルチュル」というような小さな声の集団が近づいてくる様子です。「来た来た」と外を見るとここ2ヶ月ほど度々来てくれるようになった団体さんです。

20～30羽位いるのでしょうか。スズメぐらいの大きさとウグイス色の体に赤いクチバシ、喉は黄色から橙色のグラデーションで羽にも赤い色が見えます。なんという鳥か知らないけれど、大好きなカワセミに劣らない可愛いらしさではありませんか。それになかなかの美声です。わりと低い木の枝から枝へせわしなく移り、地面にも降りて落ち葉をひっくり返してはなにかついばんでいます。しばらくウツリと眺めていましたが、ふと下を見るとじっとこの鳥たちに注目しているのは私だけではなかったのです。木の下ではうちの母猫のミイちゃんが私以上に熱心な目付きで見えています。姿勢を低くし、ジリッと動きました。あと思った次の瞬間には1羽が犠牲になってしまいました。すぐに、近くにいた夫に取り上げてもらいましたが、もうピクリとも動きません。「あー、どうしよう、ごめんね」今まで小鳥を獲ったことは無かったのに、やってしまいました。

ところでこの鳥、手持ちの図鑑を調べてもそれらしいのは載っていませんでしたので、思いついて王子動物園へもって行き名前を教えてもらってきました。一目見て「ソウシチョウですね」と言われ、分厚い図鑑の一部をコピーして下さいました。その日は部屋において眺めていましたが仕方なく、「ほんとにごめんね」と心で謝りながら翌日庭の隅に埋めました。ちょっと胸の痛むソウシチョウとの出会いでした。あの日動物園には、脚を痛めて動けなくなっているアオサギを、大きなダンボール箱に入れて保護してきた人もいました。あの子は元気になったのでしょうか。

鳥たちの受難が少しでも減ってほしいものと願っています。もちろん、あれ以来うちのミイちゃんは外に出さないようにしています。

鳥と出会った人：有村 加代子